



大学院医学研究院 伊豫雅臣教授の最終講義が行われました

令和6年3月をもって退職される大学院医学研究院 伊豫雅臣教授（精神医学）の最終講義が、3月5日（火）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外から多くの来場者が聴講しました。

伊豫教授は昭和59年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学 神経精神科に入局。国立精神・神経センター 研究員、米国 NIH 米国立客員研究員としての勤務を経て、平成3年には国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究室室長に就任。その後、浜松医科大学精神神経医学助教授として勤務の後、平成12年より千葉大学医学部教授、平成13年より千葉大学医学部医学研究院教授に就任されました。平成17年からは社会精神保健教育研究センター長を務め、令和3年からの2年間は千葉大学医学部医学研究院総括副医学研究院長・副医学部長も務められました。「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらに良い医療が提供できるように努力する」ことを理念とし、精神医学・精神医療の発展に尽力されました。

最終講義は、三木医学研究院長からのご挨拶、続いて横手附属病院長からのご挨拶、来賓の大石賢吾長崎県知事のご挨拶の後、演題『応機展開の精神医学とその底流』についてお話しされました。

講義終了後は、学生代表をはじめ、多くの関係者から謝辞と花束が贈呈されました。

伊豫教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



三木医学研究院長によるご挨拶



横手附属病院長によるご挨拶



来賓の大石賢吾知事によるご挨拶



講演の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈



伊豫先生を囲んで